

# 高梁川流域連盟趣意書

昭和29年3月

- 一、 ユネスコ憲章前文に、世界の平和は心の平和にある。各国の習慣風俗を知ることが戦争の悲劇から遠ざけると記されている。  
ユネスコの活動には色々な国際協力の計画がある。しかし我々は国際的な立場に立つだけでなく、国内的にもなすべき多くのことをもっている。ユネスコが国際間において果たすべく期待している事柄は、同時に国内の隣人同志がなさなければならぬことでもある。
- 二、 岡山県の地勢は、東西に走る幾つかの特長ある層によつて形作られている。瀬戸内海沿岸地帯、低地帯、丘陵地帯、山岳地帯といった風に、これらは孤立した地帯の累積としてあるのではなく、河川がこれらの各地帯を貫いて流れ、これらの各地帯の特質を結び合わせる。高梁川は多彩の地形と文化とを抱擁する強力な紐帯である。
- 三、 高梁川は岡山県を流れる三つの大きな河川の一であり、その流域には八十八の市と町と村があり、太古から数知れぬ人々がこの流れによつて生き、またこの流れによつて生きた人々によつて守られ、利用され、郷土の文化を生み、産業を育て、歴史の流れと共に人々の生命の糧となり、魂の故郷となつた。  
我々高梁川の流域に住む者にとつて、それは単なる死せる路傍の水流ではない。
- 四、 鉄道や産業道路は利益社会をつなぐ近代的施設である。しかし河川は産業のための動脈であると同時に、それをもつて結ばれた共同社会全体の運命的共有物でもある。
- 五、 従つて河川には、近代的利用の面と歴史的な物語とが共に残つている。我々は現在に生きているとはいえ、決して現代のみに生きているのではない。過去の歴史と未来の希望の接点としての現在のみが、本当に生きた現実の日々の営みを与える。
- 六、 高梁川流域の人々はこの川を機縁として互に理解を深め、相親しみ、協力してこの川を守り、この川で培われた文化や産業の協同体をより美しく、より合理的に築き上げなければならないと思う。
- 七、 高梁川流域連盟は、封鎖的、排他的なものではない。内容的にそれを掘り下げようとする努力をしないで、単にその地域の自尊心のみを高揚するようなことをすれば、それは排他的になつたり、自己陶醉に陥つたりせざるを得ない。この連合体は、ややもすれば陥りやすいこの種の傾向に補われるものであつてはならない。
- 八、 そこで高梁川流域の市町村は、互に協力分担して、高梁川とその流域の文化や産業の歴史と現状とを研究して、これを守り伸して行くために努力したい。  
連盟市町村は互にその個性を生かしつつ、親和協力の精神をもつて手をつなぐと同時に、人文科学的に、また自然科学的に各般の研究を分担し、それを総合して高梁川流域連盟の活動の基礎的な資料を作り上げる。  
また連盟市町村は相互に親睦を計り、理解を深め、協力の実を挙げるため健全な性格をもつ諸種の行事を行う。例えば、産業博覧会、高梁川オリピック、ボートレース、釣大会、民謡・民踊の大会、共同収穫祭、連合ハイキング、キャンプなど。

九、文化と経済の交流のため、各地で共進会、展覧会、演劇、音楽会などを開催する時各市町村を通ずるスケジュールを作成して行えば、互に経費の節減にもなる。連盟市町村は無用な競争を避け、互に特長を生かしあつて行くことによつて、お互のためにも又全体のためにも報いをうけるところは極めて大きくなる筈である。

十、青少年のために、高梁川詩集と高梁川歌集を作り、高梁川の岸辺や水上や森の中を旅行する若人達の歓びを豊かにすることも必要である。

十一、こうした高梁川流域連盟が、研究活動と年間の行事を通じて、毎年親睦を重ねて行けば、河川を中心とする文化連合の意義と、我が国における最初のモデルケースとして確立することが出来るであらう。このことは荒廢した日本において、日本人が国土に新しく正しい愛情をもつようになるために、最善の道の一であると思われる。

十二、独逸の西端を流れるライン河は、独逸の文化と産業の大動脈である。高梁川はそのスケールからいつて、ライン河の何十分の一、何百分の一でしかないかも知れない。しかし岡山県の西部を流れる高梁川との間に幾多の共通点を見出すのは、決して無理なことではない。

十三、ライン河には多くの歴史的遺蹟や景勝の地がある。高梁川にもその本流支流を通じて多くの名勝史蹟がある。ローレライの歌はライン河畔の至るところで聞かれる。高梁川にもローレライのような歌が生まれてほしいものである。

ハイデルベルヒやボンの大学は、独逸文化の源泉である。高梁川流域の都市にも幾つかの由緒のある古い学校が見出される。シュワルツワルドは、独逸精神の思索の故里である。我々の高梁川の上流にも美しい森があつて、深い思想の源となるようでありたい。

ライン河はその本流支流を通じて、凡ゆる分野に多くの歴史的人物を輩出した。

高梁川もまた、古来多くの勝れた人々を生んできた。

独逸最大のゴシックの建造物であるケルンの寺院は、中世独逸文化の最大の誇りの一である。高梁川の周辺にある白壁の都市や村落もまた、日本文化の一象徴であるといつてよい。エツセン、デュセルドルフなどの下流の工業地帯は、高梁川河口工業地帯の将来のための良模範であるといえる。

收穫祭のラインの河畔の踊りや歌声は、その地に住む人々にとつても、外国からの客人にとつても、素朴で快活で、又敬虔な感謝に満ちたものであるが、高梁川の沿川でも、享樂的な物見遊山的な遊びでなくて、生産と大地に結びついた数々の催が芽生え育つべきだ。

十四、これら高梁川流域連盟の意義と仕事とは、我々の内心の自覚と活動的な理想とをもつて始められることによつて、その成果が期待される。

またこれに共鳴される各種団体の理解ある協力が併わせて希望される。

十五、近来我が国の至る所に水害の頻りなるものを見るにつけ、我々高梁川が最もよく護られ、最も多く愛されることによつて、我々が最も大なる恵みをうけ、また最も大なる歴史的役割を演ずるように、相協力してゆくことが出来るならば、我々の幸福は幾倍かにされ、また我々の繁栄を永久のものとする事が出来るであらう。